

「SSH 生徒研究発表会 in 神戸」開催!!

8月9日～10日、令和5年度SSH生徒研究発表会（主催：文部科学省・科学技術振興機構）が神戸国際展示場にて開催されました。全国から集まったSSH代表校が数学・情報・物理・生物・化学などの各分野の研究成果を披露し、本校からは、3年生の阿部晴香さん、大城陽愛さん、吉原しほりさんの3名が、液状化現象についての研究で出場しました。代表の皆さんに研究活動について質問してみました!!



①研究活動の成果・・・

液状化の先行研究はたくさんありましたが、専門の用語や知識が多く、どのように私たちの実験に活かしていくかを悩みました。また、受験生でもあり時間が限られている中で、実験・考察したものを、たった2枚のポスターにわかりやすく要約していくことが大変でした。／先行研究には、英語で書かれているものがあつたり、専門用語や数式が多かつたりと、それらを読み解いて私たちの研究に活用していく事が大変でした。また、実際に実験をしたときは、液状化の発生には様々な条件があるので、どの条件を使ってどう対照実験するかを考えることも大変でした。ポスター作りも、何度も何度も手直しをして途中心が折れそうでした(笑)



②研究発表会に参加した感想・・・

どこの学校も研究のレベルが高く、かつ質疑応答が活発だったことが印象に残っています。研究発表会と聞くと堅苦しいイメージがあるかもしれませんが、フランクな話が多く、これが研究の根本なのだろうと強く感じました。／大人数に囲まれて発表！というわけではなかったので、過剰に緊張することなく、リラックスして発表することができました。また、質疑応答も盛んに行われ、自分たちは気付けなかった部分の指摘や改善点をいただくことができ、研究をさらに発展させる一歩になったと思います。他校の発表も、様々な分野の研究を聞くことができ、自分の中でも大変価値のあるものになったと思います。



③後輩に伝えたいこと・・・

研究は自分たちで進めると設備の限界を感じ、いき詰まってしまうことが多々あります。積極的に発表大会に参加し、大学の教授の方にアポイントを取るなどアクションを起こすことで打開できることもあると思うので、チャンスを自分で掴みに行ってください。／私たちが結構ギリギリになって追い詰められてから本気を出すタイプで、追実験が十分に出来なかつたり、実験装置を購入することが出来なかつたりと苦労することが多かつたので、「早め早めに動くこと」が大切だ、ということをお伝えたいです。また、先生方、お友達、ご両親、出来るのであれば大学の教授の方々など、多くの人を頼って欲しいです。多摩高校のMerakiでは基本自分たちだけで研究を済ませるけど大学と連携して研究をしている学校もあります。自分たちだけでは、買える装置に限界があり、使えるようになるには難しすぎる知識もあると思うので、よりよい研究をするために、是非その道のプロフェッショナルを頼って見てほしいです。大変なことも多いと思いますが、頑張ってください！絶対いい経験になります！



8月学校説明会

8月9日、多摩市民館で第1回学校説明会が開催されました。中学生を対象に神奈川県立多摩高等学校の特色などが生徒会によって紹介され、ダンスドリル部の発表や、SSHの活動として行われている本校独自の学校設定教科である「Meraki」の発表が行われました。この発表では3年生の高橋心菜さんと小川千尋さんがメラニンの破壊による髪の毛の脱色、アスコルビン酸を使った酸性化での脱色について発表しました。当日を終えて、2人は「自分たちの実験がここまでレベルを上げることが出来ていたのかと嬉しかった、聞いてくれる人が終わったあとに「面白かったです」と言ってくれて感動しました。」と話してくれました。

また今回参加した本校生徒は「多摩は魅力溢れる高校だと改めて感じました。」「午前も午後もたくさんお客さん入っていて凄かった。」とも話してくれました。

